さくら新聞

発行者：NPO法人
下関深坂さくら友の会
下関市横野町1-13-1
TEL：083-258-3277
http://members3.jcom.home.ne.jp/shuzo3/sakura/

NPO法人認証記念式典
― 七月二六日 開催 ―

七月二六日（日）、安岡町公民館において正午から、「下関深坂さくら友の会」NPO法人認証記念式典が行われた。約八十名が出席して、楽しい雰囲気の中で行われた。

第一部は式典、第二部はアトラクションで「さくら友の会」の紹介スライド、地元の女声コーラス、玉川一座のマジックショー、ビンゴゲーム（景品は各種フルーツ）など、賑やかに行われ、多くの出席者が、もっと堅苦しい式典を予想していたので、こんなに楽しいものとは知らなかったと好評だった。

来賓には中尾友昭（下関市長）、伊藤博（山口県議会議員）、安倍昭恵（前衆議院議員安倍晋三夫人）、福田幸博（下関市議会議員）、請川羨臣（安岡自治会連合会会長）、梶山正迪（下関響灘ライオンズクラブ会長）の諸氏が出席された。

NPO法人の方針

見事なロウテクで披露

- **●深坂自然の森**を県下屈指の桜の名所とします。
- **●深坂自然の森**を四季を通じて集える憩いの場にします。
- **●深坂自然の森**を通して地域、及び他団体との交流を図ります。
- **●深坂自然の森**から環境保全、地域活性化、まちづくりを目指します。

NPO法人の認証 おめでとうございます

下関市長　中尾友昭

「下関深坂さくら友の会」がこの度、NPO法人の認証を受け、無事に登記手続きが完了されましたことを、心からお慶び申し上げますとともに、NPO法人設立に多大なご尽力をいただいた理事長の福冨様をはじめとする役員の皆さまに深く敬意を表します。

ご承知のとおり、深坂自然の森は、市民の憩いの場、自然学習の場として多くの市民に親しまれています。そして、桜は下関の花木であると同時に、日本人なら誰もが愛する花木でございます。「さくら友の会」の皆さまが、長年にわたり深坂の桜の維持・管理活動を実施されてこられたことに、心から感謝申し上げます。

さて、まちづくりというものは、行政だけでできるものでもなければ、企業の経済活動だけでできるものでもありません。自分が住むまちを、どのようなまちにしていきたいか、これをそれぞれの立場から積極的に考え、行動していくことが重要だと考えております。特に、行政と企業の役割の境目においては、NPO法人などの市民活動グループにご活躍いただくことが期待されています。そのなかで、「さくら友の会」活動は、まさに先駆的なものとして特筆すべきであると思われます。

「下関深坂さくら友の会」の皆様におかれましては、この度のNPO法人化を契機に、今まで以上に活動の輪を広げていただき、下関市民の宝である深坂自然の森の維持・管理、さらには、自然環境の保全に関する市民意識の高揚に向けた諸活動に、引き続きご尽力賜りたいと存じます。

結びにあたり、「下関深坂さくら友の会」の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

（平成廿一年七月廿六日）

「さくら友の会」のロゴマーク

桜の花びらを形作っているMの字は深坂のM、真ん中の絡み合ったSの字は下関のSと桜のS。二つのSはハートマークを形作り、桜を愛し友を愛する意味が隠されている。緑色は深坂の森の色。青は湖と青空。（デザインは道坂優理事による。）

第三回定期総会

平成二一年七月十二日(日)九時から「森の家」で第三回定期総会が開催された。四七名出席。この総会を以って、NPO法人以前のさくら友の会は解散となり、NPO法人下関深坂さくら友の会のみが存続することになる。（決算は四頁）

総会は１０分間で終了

桜四方山

日本人が好む木に桜と並んで松がある。しかし、今や日本の松は絶滅危惧種の感がある。深坂の森でも昨年枯れかかった松を市がまとめて切り倒した。

松の美しさは何だろう？「松の持つ波長が人間に近いので癒し効果がある。」なんていう人が居た。物理学的な波長ではないだろう。松は痩せ地に育つから、松林は木が込み合わず、光りの透りも風通しも良い。松林を抜けてくる風には松風という名まで与えて賞でるほど、肌にも耳にも心地よい。松の香り、松の緑。鼻にも目にも好ましい。波長がぴったり合って文句のつけようがない。花は桜だが、普段の美しさは松だ。深坂にも松林が欲しい。今ある松を何とか守れないか。EM菌（Effective Microorganisms）という植物に与えて元気を回復させる微生物群があるらしい。人間にとってのビフィズス菌の様なものか？それで松が守れるなら試して見る価値はある。「さくら友の会松を守る！」いつの日か、そんな見出しが躍るさくら新聞を見たいものだ。

年間活動の記録　（２００９年２～８月）

二月臨時作業

二月六日仮植場から苗木五十本の掘り出し、八日深坂の森に植樹七十本、二十二日仮植場に五十本の植え込み。

斜面での植樹

三月八日定例会

この日は、安岡にある中華料理店「胡家（ふうちゃ）」が奉仕して、昼食に肉団子スープを作って出してくださるということで、紹介があっている所の写真である。料理長が閲兵しているようだ。料理長は大の桜好きで、お嬢さんの名は「さくら」だそうである。この日の作業は、3班に別れ、刈り払い部隊、古杭集め班、ゴミ集め班とされた。間もなく花見のシーズンである。ゴミを集めて奇麗にしておきたい。この日の参加者は四一名だった。

料理長の閲兵？

四月五日「さくらえ」
四月十～十二日 吉野山研修旅行。

二～三頁に掲載

五月十七日　定例会

午前九時、森の家に三七名が集合。この日は、山口県森林整備課長の松尾宏治氏の「やまぐち県出前トーク」を聞いた。

わたしたちは「山口森林づくり県民税」として個人で五百円の税金を払っている。これがどのように使われているか、また山口県の森林づくりのビジョンなどを聞いた。

さくら友の会が補助を受けられるような対象にならないかと言う質問も出たが、今のところ難しいようだ。

話が始まる頃から、激しい雨で、話し声もかき消されるほどだった。さくら友の会発足以来、雨で作業中止になったことは一度もなかったがこの日ばかりは中止になった。会員交流部会担当の美味しいカレーを一緒に食べて解散した。

晴耕雨読

七月七日
松枯れ防止実験開始

EM菌のもとを山口市まで出かけて購入し、会員交流部会長の倉庫を借りて培養した。二十リットルのポリタンク二十缶に培養のもとと糖蜜などを入れて発酵させた。

深坂の森では十七本の松の中から、九本にEM活性液を与え、残り八本は比較資料としてそのままとした。

勿論、育ちの悪い桜にも与える積もりである。

EM菌の培養

七月十二日　定期総会
七月二六日　NPO法人認証記念式

一頁に掲載。

八月九日臨時作業

十七名が参加して、通称もみじ谷で作業を行った。刈り払い、桜の施肥、そしてもみじ谷らしくするため、幼いもみじに被い被さる樹木の枝を払った。もみじ谷から見晴台（みはらしだい）に至る山道が一部未舗装であるが、市は舗装する計画を持っているのだろうか？要望したい。この日の昼食は親子丼だった。

EM活性液を松にかける

この紅葉でいつ飲める？

決算報告

既にNPO法人としての予算は、一月に設立総会を開いた時、二十一年度分（二十一年四月から二十二年三月まで）を、可決成立させているので、決算期が異なる任意団体の会計決算の承認のみということになる。

団体会員二十口、個人会員一五十口、賛助会員二三五口は堅実な伸びを見せていて心強い。

総会後は準備体操、そして定例作業に出動した。（一頁に関連記事）

平成２０年度　決算報告（任意団体「さくら友の会」）　20 年 7 月 1 日～21 年 6 月 30 日

支出			収入		
科目	予算額	実績	科目	予算額	実績
通信費（切手、はがき代等）	250,000	193,285	前期繰越	320,780	320,780
作業備品（刈払機、鎌等）	200,000	176,502	市民活動支援補助金	300,000	300,000
消耗品費（肥料、杭、シュロ縄、苗木、チップソー、ガソリン等）	210,000	257,466	下関響灘LCより	100,000	100,000
			団体会員会費	60,000	100,000
懇親・交流（弁当・鍋材料等）	250,000	184,371	個人会員会費	300,000	300,000
さくら通信・新聞	150,000	35,840	賛助会員会費	263,000	235,000
事務所経費	150,000	37,560	雑収入	10,000	28,093
雑費	90,000	4,978	受取利息	800	678
予備費	54,580	0			
剰余金	0	494,549			
合　　計	1,354,580	1,384,551	合　　計	1,354,580	1,384,551